

四国森林管理局入札監視委員会審議内容

開催日及び場所	平成21年3月16日(月) 四国森林管理局会議室		
委員	渡邊法美(高知工科大学マネジメント学部教授) 笹原克夫(高知大学農学部教授) 川合通子(高知県森と緑の会理事長) 古谷純代(高知商工会議所女性会会長)		
審議対象期間	平成20年10月1日～平成20年12月31日		
抽出案件	総件数 60件	(備考) 治山、林道の各工事、生産及び造林の各事業請負並びにこれらの事業に係る調査・設計業務について、入札方式及び規模区分別に、落札率の高い5件以上の事案を抽出するとともに、5件以外についても委員長の判断により抽出する。	
治山工事	12件		
林道工事	6件		
建築等工事	4件		
治山工事に係るコンサルタント業務	10件		
林道工事に係るコンサルタント業務	0件		
造林事業	16件		
生産事業	7件		
その他	5件		総件数 101件
委員からの意見・質問、それに対する回答等	意見・質問		回答
	別紙のとおり	別紙のとおり	
委員会による意見の具申又は勧告の内容	・特になし		

(別紙)

委員からの意見・質問、それに対する回答等 (H20年度 第4回)

委員からの意見・質問	回 答
<p>○山間部での森林事務所新築工事については、入札額が常に予定価格を上回っている。林野庁の建築工事は山間部であるので、二省庁統一の積算基準に基づくのではなく、独自に市況調査をし、僻地割増などを行うべきではないか。</p>	<p>森林事務所の建替工事については、山間僻地が多いため客観的なデータが取りにくい状況にあるが、今後は予定価格の決定に際し、市町村、民間等の状況を考慮する必要があると考える。</p>
<p>○同一業者が2件の建築工事を落札しているが、一方は落札率が99.6%であり、他方は落札率が約50%である。同じ建築工事でこのような差が出たのはなぜか。</p>	<p>森林事務所の新築工事は住居部分を含んでおり、内装、配線等が必要。一方、黒尊山の建築物は東屋的なもので、使用材料に防腐加工した木材を使用することと、バイオトイレの設置があり、落札業者はこの分野のノウハウがあったことが低落札できた理由ではないかと推測される。</p>
<p>○業種によっては過当競争が進み、相当低い価格で応札する業者も見受けられるが、予定価格を事前に公表することで適正価格での競争となるのではないか。</p>	<p>予定価格を公表すると、最低額が推測でき、応札額が最低額付近に集中する傾向にあり、全国的に予定価格の事前公表は見直しの方向にあると聞いている。今後、総合評価落札方式が適用されると、価格競争だけでなく技術面も考慮することになることで一定の過当競争も防止できるものと考えている。</p>
<p>○モニタリング調査等については、イベント等で調査結果を発表するなど、一般国民に対してもっと積極的に公表してはどうか。</p>	<p>調査結果などは冊子にしているのが希望者はコピーを入手するなど是可以するが、今後は、「山の日」のイベントやHP等を使い効果的な公表について検討していきたい。</p>
<p>○公共工事等、素材生産造林等事業と同様に、コンサルタント業務、調査業務委託についても年度当初に実施予定箇所をHP等で公表することにより、入札参加者も増えるのではないか。</p>	<p>年度当初に調査内容の詳細まで決めることはできず、年間計画の公表は難しいが、調査業務の発注状況についても関心を持って頂けるような工夫を検討したい。</p>
<p>○コンサルタント業務については、新規参入が増えているように思うが、過当競争を防ぐためにも、最低制限価格制度の導入を検討してはどうか。</p>	<p>最低制限価格の設定については、他省庁の動向を見ながら検討していきたい。</p>